



こうふ町 議会だより

町勢
世帯数/1,156世帯
人口/3,691人
(平成20年2月1日現在)

町の木



ぶな

町の花



あやめ



今年もよい年で
ありますように

(本町一丁目とんどさん)

一般会計	844万円増額	2 P
一般質問	町政を問う	4 P
地方行政調査報告		8 P

12月定例会

一般会計844万円増額 予算総額29億5284万円に

平成19年12月定例会は10日に招集され会期を14日までの5日間と定めて開かれた。
今回の定例会には、平成19年度の一般会計補正予算と特別会計補正予算、条例改正など13議案が提出された。
議会ではこれらについて慎重に審議した結果、いずれも原案どおり可決した。
11日の本会議では3名の議員が一般質問に立ち、町政について活発な議論を展開した。
本会期中の傍聴者は、6名でした。

補正予算

一般会計

主な内容

- 総務費 209万円増額
過疎バス対策費の内代替えバス運行補助金の増額によるもの。
- 民生費 1168万円増額
特別医療費助成費の増額と障害者福祉費のうち前年度分の償還金によるもの。
- 衛生費 2291万円増額
水道整備費のうち簡易水道特別会計への繰出金。



特別会計

- 農林水産業費 816万円増額
燃料費、光熱水費、保守点検委託料等の増額によるもの。
- 土木費 84万円増額
道路維持費の増額によるもの。
- 消防費 54万円増額
雪害対策補助金が主なもの。
- 教育費 209万円増額
各施設の修繕費が主なもの。
- 公債費 88万円減額
利子償還金の減額によるもの。
- 諸支出金 62万円増額
公共下水道事業推進基金積立金によるもの。
- 予備費 3964万円減額
歳入と歳出を精査し予備費を減額するもの。
- 国民健康保険特別会計 (事業勘定) 71万円減額
財政調整交付金の減額により繰出金を減額するもの。
- 国民健康保険特別会計 (施設勘定) 71万円減額
職員手当等一般管理費、義歯委託料の増額と医療用機器の減額、予備費の減額によるもの。
- 介護保険事業特別会計 (保険事業勘定) 430万円増額
地域密着型介護サービス給付費の増額が主なもの。
- 簡易水道事業特別会計 2955万円増額
笠原原水道工事費700万円と公債費元利償還金2254万円が主なもの。
- 農業集落排水事業特別会計 500万円増額
宮市の農業集落排水工事が主なもの。

条例改正

- ▼江府町農村地域工業等導入促進法に基づく指定区域における固定資産税の課税免除に関する条例制定
この条例は農村地域工業導入促進法に規程された適用地域に企業進出したものに対し、3年間の固定資産税の課税免除を行うことにより企業誘致を促進するためのものである。ただし、免除額の75%は交付税として国より支給され実質の歳入減額は、25%となる。
- ▼江府町職員の給与に関する条例の一部改正
江府町職員の育児休業に関する条例の一部改正
江府町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正
以上3条例は人事院勧告に基づき若年層の給料を増額改正し育児等の充実を図るものである。

▽江府町特別医療費助成条例の一部改正
県の条例改正により、医療費の助成について一部改正した。特にこのたびの改正内容としては、小児の通院に係る助成対象を「5歳未満」から「小学校就学前まで」に拡大した点にあり、新条例として平成20年4月1日より施行されるものである。



サントリー天然水(株)「奥大山ブナの森工場」

一般質問



ふるさと資源で活性化を 町民の歌「江府町讃歌」 の定着は

日野尾 優

問	水サミット開催は
答	「水フォーラム」を検討する

質問 わが町は、町名の由来なり、風光明媚な秀峰大山、烏ヶ山をバックに四季折々変わる山紫水明の自然環境の中、発電所、農用ダム、奥大山の水、水工場、今春操業予定のサントリー天然水等水関連企業もあります。このような状況の中で、「全国水サミット」を開催して、ふるさと資源で活性化を図ったかどうか、町長に所見を伺う。

町長答弁 町は「自然とふれあう

問	町民の歌定着は
答	推進委員会にて検討定着を図る

緒になつて実施に向け検討していく必要があると考えます。厳しい財政状況の中、なるべく町費のかからない方向で進めて参りたいと存じます。

質問 長年にわたる議会質問なり、各種団体代表の「町民歌」制定の陳情で念願の町民の歌「江府町讃歌」が完成し、先に盛大に発表会が開催されました。町民はもとより町内外に広く定着し歌っていたいただき、次代に引き継ぐ必要があります。町長の方策なり所見を伺う。



町民の歌「江府町讃歌」発表会

ただき、歌っていただけなければなりません。各小学校、中学校では取組んでいただいております。今後、各事業所各団体とそれぞれの団体が主催する行事等で歌っていただくと思います。また、この歌のCDを作成し各家庭に配布し、定着を図っていきたく考えております。そのためにも、「町民の歌推進委員会」を立上げ、議論、検討を頂き、町民の皆様とともに定着させていきたいと考えております。



地域の活性化 情報化等の対応は

田中 幹啓

問	大山圏の観光開発は
答	周辺町村と連携

質問 21世紀は水の時代である。サントリーが地域との共生を訴え進出、若者の雇用を町民が期待していたが、現状では数字になっていない。サントリーの雇用に対するような要求交渉をされているか町長に伺う。

町長答弁

第一次募集は580を越える応募があった。採用は34名で江府町は6名の採用と少なかったが、地元の皆様を採用してもらうため、副町長と一緒に交渉し、第二次募集は320余名の応募があり採用は14名で江府町の方



サントリー天然水(株)「奥大山ブナの森工場」

は5名で、少しは結果は出たが依然と少なく、今後の採用には若者定住のため、採用をお願いしていきます。

質問 サントリーの進出、ブルーベリー農園、共生の森の整備等で笠原原の台地は一変し、観光面での飛躍が考えられる。蒜山高原には250万人の観光客が来るとき、将来は県境を越え一大観光ゾーンとしていく必要があるか町長に伺う。

ある。井上町長時代から大きな構想があった。大きな夢であるが瓜菜沢と笠原原の台地に橋を掛け観光客を誘致してはどうか今後の研究調査について伺う。

町長答弁

サントリー、ブルーベリー、鏡ヶ成、笠原原の台地から見る夕日等は、観光の中心となり重要な地区であり今後は蒜山との連携も重要課題です。共生の森を生かしながら、鬼女台、瓜菜沢、笠原原の台地、鍵掛峠も含め他町村と連携を大切に活性化につなげたい。瓜菜沢、笠原原の掛橋は別として核が出来たので将来への夢を持ち、構想を精査しながら町民の皆様と一緒に活性化につなげたいと思っております。

質問

巨大な工場が雄姿

問	ケーブルテレビの導入は
答	庁舎内で検討

質問 2007年7月テレビのデジタル化になりこの対応について相談室

を表した。今後大量の水を汲み上げれば水不足を生じる不安もある。将来的には第二工場の建設も予定と聞くが、町民及び下流住民の方々に更なる説明が必要と考える。町長の考え方を伺う。

町長答弁

水環境影響評価委員会等を設置し、公開しながら最終的なまとめが出来た。モニタリング委員会を設置し、第一回委員会が開催され、順次公表していく。今後第二工場等建設し増産の場合は、環境保全協定を重要視しながら、町民の皆様にご報告いたします。今後観測を続けていただき、用水量、排水量のデータを報告し、排水量を増す場合や公害問題等も協定書通り報告いたします。

町長答弁

当時地区の共聴システムを連結し県下一のケーブルテレビ構想を目指していましたが、農業基盤整備、住民環境整備等を優先し基盤整備も完了し下水道工事も90%終了して、今ケーブルテレビ等庁舎内で検討しておりますが、約10億円が必要で過疎債も借入れが出来ず当分難しい状況です。今後はブロードバンドという部分を優先しながら進めたいと思っております。デジタル化については共聴組合の方と改修を検討中です。情報通信の不感地区は難視聴が出来ないように要望中です。今後もプロジェクトチームで検討いたします。

一般質問



定年制度改革 若者が住みたい 町づくり

川上 富夫

問	定年制度の見直しは
答	本町にあった制度へ

質問 現在定年制の年齢は、60歳でありながら内規によって、退職勧奨が50歳から行われます。現在管理職は58歳を退職年とされていますが、西部の町村はほとんど50歳以上で退職勧奨により、肩たたきが行われ、労働意欲も減退してきます。年金を貰うまではまだまだ時間がかかります。厳しい財政事情で行財政改革を進めると共に江府町独自で制度の見直し、給与体系の確立が必用と考えるが町長の所見を伺う。

町長答弁

管理職を対象とした内規により50歳以上で25年以上の勤務者に退職勧奨を行い、さらに58歳到達年の年度末に退職ということ、近年実施させていただいております。県下町村をみますと58歳退職は大変厳しいと認識しております。さらに再就職等も厳しく、年金受給までも相当時間があります。経験豊富な人材の早期退職の弊害もありますが、本町の財政状況に對しての定員管理という部分でやむを得なく実施しています。今後従来の勧奨制度だけでなく、他町村で実施されている到達年齢による役職の解除、処遇の見直し、一方では退職による再雇用制度、嘱託制度、一定年齢到達者のコース選択など、江

問	若者が住みたい町づくりは
答	子育て環境整備を

府町の財政にあったやり方を再度検討します。

質問

平成19年1月1日現在54人の減少で人口は3,711人です。昨年生まれた子供さんは10人で県下2番目に少ない出生です。全国的に出生率の低下は進んでいます。若者が住みたい、子供と一緒に暮らしたい、2世代3世代一緒に暮らせる町づくりが、目指すところでは、近くに雇用の場があることです。小さくてもいろいろ

町長答弁

人口減少、少子高齢化現実大変大きな問題です。奥大山山麓に大きな企業が来たわけですが、身近な就職先という部分では経済情勢の悪化により厳しい状況であります。県大阪事務所等を通じて紹介をお願いしています。特に少子高齢化の中、女

性の勤め口が近くに有ればいいと思います。そして、県では、定住対策については積極的にPRしています。定住総合推進協議会等と連絡を密にして、本町の特命事項として定住対策を主にその仕事を行う人事配置が必要に思っています。

就労の場、住む場所、子育て環境、総合的な整備に精いっぱい努力しなければいけないと考えております。



子どもの国保育園餅つき

陳情の結果

みなさんから提出のあった陳情を常任委員会で審査し、委員長の報告を受け12月定例議会本会議で審査した結果、次のとおり決定しました。

件名	審議結果
品目横断的経営安定対策の見直しと多様な担い手の育成を求める陳情	趣旨採択
日豪をはじめとするEPA路線を転換し自給率の向上と食糧主権にもとづく農政を求める陳情	趣旨採択
「JR不採用問題の解決に向けた協議の開始を求める意見書」の提出を求める陳情書	趣旨採択
地方財政の強化・拡充及び財政健全化法の施行にあたっては地方自治原則の堅持の意見書採択を求める陳情書	採 択
後期高齢者医療制度をはじめ、高齢者医療制度改悪の中止・撤回を求める意見書採択を求める陳情書	不 採 択
後期高齢者医療制度の撤回・見直しを求める意見書の提出について	不 採 択
文科省による軍の「強制」削除の沖縄「集団自決」検定意見の撤回について	不 採 択
「保険でより良い歯科医療の実現を求める意見書」採択を求める陳情書	採 択
介護療養病床廃止・医療療養病床削減計画中止の意見書採択等を求める陳情書	不 採 択
「現行保育制度の堅持・拡充、保育・学童保育・子育て支援予算の大幅増額」を求める意見書提出の陳情書	趣旨採択
島根原子力発電所周辺の断層調査と耐震基準の見直し、及び原子力に依存しないエネルギー政策の転換を求める陳情書	趣旨採択
沖縄戦における日本軍の命令・強制誘導による「集団自決」の記述を削除、修正させた教科書検定の結果を撤回し、同記述の速やかな回復を要求する意見書提出についての陳情書	不 採 択
「集団的自衛権」の行使についての政府解釈の変更並びにミサイル防衛システム導入に反対し、軍事費・在日米軍への財政支出を大幅に削減し、地方自治体財源の充実を要求する意見書提出についての陳情書	趣旨採択
地域医療と国立病院の充実に関する陳情書	採 択
後期高齢者医療制度の中止・撤回に関する陳情	不 採 択
後期高齢者医療制度の中止・撤回に関する陳情	不 採 択
後期高齢者医療制度の中止・撤回に関する陳情	不 採 択
後期高齢者医療制度の中止・撤回に関する陳情	不 採 択
「全国学力・学習状況調査」の調査結果を不開示情報とされることを求める陳情書	不 採 択

地方行政調査報告

(平成19年10月17日～19日)

企業誘致及び観光について

千葉県浦安市

調査目的

講演を聴き、意見交換等により江府町における企業誘致及び観光について調査し、江府町の町づくりに活かす。

講演者プロフィール

安田定明
株式会社武蔵野
代表取締役

鳥取県南部町出身

大山ハムに就職後、東京都内の食品メーカーに出向。営業マンとして働き、1969年に会社を辞め、独立。

株式会社武蔵野

本社
埼玉県朝霞市西原

設立

1969年12月

資本金

2億6000万円

売上

680億1300万円

(2007年3月期)

従業員

4459人

(正社員741人)

事業の内容

弁当、おにぎり等の食品製造、販売

事業の概要

独立当初はパン粉の製造販売。その後、大手パンメーカーとの取引が始まり、会社は急速に成長。大手パンメーカーが機械買入れのため、技術者をアメリカで研修。機械導入後、サンドイッチの製造に着手。消費者が甘味離れの傾向にあり、米飯商品の製造に着手。このことが「中食」の原点となる。

1977年

おにぎり製造販売。ガ

セット方式バリバリ海苔じかに海苔を巻くのではなく、フィルムで巻く。

1979年

大手パンメーカーの株式を買取。コンビニエンスストア、セブンイレブんと取引開始。3年後、売上高70億達成。

2004年

おにぎりのホット成型、冷却システム開発。以来、新規事業にも取り組んでいる。

考察

株式会社武蔵野の社長、安田氏の講演を拝聴した。

企業に対する理念と自らの歩まれた道は、経営の危機も乗り越えて現在に至る長い道程であったとうかがった。天与のものとも言うべ



おにぎりの製造工程

(配布資料より)



弁当の生産ライン

(配布資料より)

と言われた。

き、画期的なアイデアでコンビニおにぎりを刷新。その事はまさに中食産業をリードし続けると言っても過言ではない。従前のビニール包装から、バリバリの海苔ごはんを包む、コンビニおにぎりへと画期的な仕組みを考察し、日本の中食産業に革命を起こした武蔵野。

真面目に面白いものをつくり、中食業界をリードする企業に発展させたいと常に考えている原点は、ただ努力あるのみ

一方、食の追求を深める中で新規産業にも取組みを開始。10数年前から健康宅配を開始。糖尿病や腎臓病を患っている人向けのカロリー制限宅配食を1都10県6000人、日替わり宅配食から健康になつてほしいと話された。

企業誘致は地域間の競争も激しいと考えられるが、何をすることに、先ず人が多くいることが条件であると強く感じた。

スキー場の指定管理について

福島県耶麻郡猪苗代町

調査目的

猪苗代町におけるスキー場指定管理の取組みを調査し、江府町の指定管理制度に活かす。

昭和34年

リフト建設、昭和観光開発が第1リフト設置。以後、2、3、5、6、7リフト設置。

平成7年

猪苗代町営クワッド

平成18年

町営施設の指定管理者に福島スノーアイランズを指定

スキー場の入込者数

(過去5年間町内全スキー場)

平成10年

868,055人

平成15年

540,301人

平成18年

433,061人

来場者比率

スキー 50%

スノーボード 50%

猪苗代スキー場の概要

スキー場面積 306・63 ha

ゲレンデ面積 74・65 ha

沿革

昭和23年

県営スキー場開設



猪苗代スキー場全体図

考察

猪苗代町は全国的に名の知れた観光地であり、アクセスも首都圏から東北新幹線、JR線で2時間半と比較的利便性にも恵まれた場所と言える。

平成11年猪苗代町の観光振興基本構想が発表され、新しい観光の町として生まれ変わるため官民一体となって動きはじめた。

スキー場の周りには温泉が多いこともスキー客には魅力ではあるが、以前に比べてスキーそのものがレジャーに参画するスポーツではなくなった。

中には数多くの宿泊施設や観光客用の建物も目につく。

猪苗代町は、小さなスキー場も含めて11箇所のスキー場があるが、スキー場を指定管理に出す一方で新しい観光の町として町民一人ひとりが地域の自然や長い年月をかけて育まれた歴史、民族文化を大切に、そこに住んでいることを誇れる町づくりをめざしているとされた。

トでは、主役は地元住民「人」こそが最大最高の観光資源であると明言された。

人を訪ねて人が来る人が伝えて人が来る人が人を連れて来る

これから先、望まれる観光の町の姿ではないかと云われた。

観光の町江府町として、もう一度見つめ直すことも無駄ではないのではと感じました。

猪苗代スキー場



総務経済常任委員会

調査日 平成19年11月8日

事務調査

1. 行政改革の進捗状況

平成15年からの3年間で人件費については、88%まで削減し、歳出合計で77%の減額に努力されている。職員数も4年間で10人減少していますが、住民サービスに支障がないように努力されたい。平成20年4月より公共料金の見直しに取り組みが十分議論していただきたい。

2. 地域高規格道路江府三次線(江府道路)の進捗

いきなりのルート変更のため、行政不信が大きな弊害となり、十分説明ができていない状況ですが、関係6集落が一つになり対応がなされようとしています。関係集落の皆さんに十分納得のいく説明をし、ご理解を頂いて実施に努められたい。

3. 江府町地域振興(株)施設・運営状況

水工場の運営状況は順調であるが、設備等の老朽化と生産力対応を十分検討し努力されたい。

4. 農業公社の運営状況

平成15年から始まった公社の売り上げは平成17年がピークで減少傾向です。今後の経営について十分検討されたい。

江府町堆肥センター

平成13年から下垣充氏の牛舎横に江府町堆肥センターを併設し、機械設備等整備してきました。

町道危険箇所の状況

生活道路として住民が安心して通行できる様、点検パトロールの継続と整備に努められたい。尚工事については、事故がないよう完全管理の徹底につとめること。

国道482号下蚊屋バイパスの状況

平成22年春の開通に向けて地元の理解を得ながら、用地買収もある程度まで進み設計、用地買収が出来たとところから随時発注されていく予定。現在取り付け道路工事が急ピッチで行われています。地元的生活に支障がないよう県と連携をとって安全に進められたい。

サントリーの工場建設と雇用

工場建設は完成し、試運転が既に始まっています。平成20年春の本操業に向けて努力されたい。

サントリー2次募集

2次募集について採用枠15名に対して、応募者数332人。現在最終の絞り込みがされているようです。

うです。地元江府町の採用に配慮されたい。又、日通についても十分地元採用に配慮されることを切望します。

江尾地区活性化施設「みちくさ」

現在会員数80名で地域の新鮮野菜を中心に販売活動されて業績も安定してきています。

町内のイベント等に積極的に参加活動され、「みちくさ」の今後に大いに期待します。

町民の生活に於いての地域間の平準化に対して要望がなされています。厳しい財政ですが、年次計画を立て対応しなければなりません。今後引き続き行財政改革を推進されたい。



奥大山スキー教室開校式



江尾地区活性化施設「みちくさ」

教育民生常任委員会

調査日 平成19年11月15日

社会福祉協議会

昭和62年に設立された社会福祉協議会は現在、ホームヘルパー5人を含め11人の職員で運営を行っている。事業の中心は在宅福祉サービスですがデイサービスを行っていないこともあり、経営的には厳しく町の補助を得て運営されている。しかし町の厳しい財政状況により、平成18年度に約1600万円あった補助金が平成19年度は約800万円と半減し、職員の人件費を削減するなど経費削減に努めているが限界にきている。基金の積立残高が約3500万円ある今から、町の重要な在宅介護を担う、社会福祉協議会の在り方を今後どのようにするのか本格的な方向を示す必要がある。

チロルの里 特別養護老人ホーム

特別養護老人ホームは、ベッド数50床のうち約半数が江府町の入所者が利用し、認知症を対象としたグループホームは10部屋の内6名の町内利用者となっている。現在、利用待機者が町内外あわせて約50名あり、経営は順調に行われている。2階に食堂を増設し、音楽療法を取り入れるなど、入所者のサービス充実の努力がうかがえる。今後とも関係機関と連携し利用者に喜ばれる施設となるよう要望する。又現在町は土地の無償提供と利子補給を行っているが町の財政が厳しいなかで今後の検討が必要である。

介護老人保健施設「あやめ」

開設2年目を迎えた介護老人保健施設「あやめ」は新たにいられた武田施設長のもと「利用者第一」を基本にサービスの充実に努めている。経営的には、ほぼ計画通りに進み順調に推移している。平成19年9月の実績では、町内の利用者は73名中10

名の利用となっている。介護老人保健施設の特徴から、毎月入所者の約2割が入退所し不安定要素となっている。今後の課題として、医療の必要な入所者の受け入れに対する対応や看護師等の人材確保、冬季の雪によるゲイケアの送迎対策などが

江尾小学校

平成21年春に小学校統合が行われるに当たり、耐震補強と大規模改修事業がなされた。全体的に明るくなりこれで児童、先生にとり安心安全な環境となった。

下蚊屋分校、米原分校

休校中の下蚊屋分校と米原分校は、ほとんど使用されておらず少しずつ傷みが始まっている。今の制度では公共、教育、福祉等で利用すれば補助金返還の必要はなく、起債償還も今までと同じ返済となる。ただし、目的外使用の場合は補助金返還と起債の一括償還となる。この2校に限らず統合で廃校となる学校をどうするのか、今後の課題である。

米沢小学校

現在32名の児童が通つ



増築されたチロルの里特別養護老人ホーム食堂



ひりり



大河原 小峯 勝公

少子高齢化

このことが叫ばれて久しい今ふと人ごとでなく我がことのような年になってしまった。

そんなことに気がついてはつとしてあせりの方が先にたつ。古希を経ていよいよ七十の坂を登る。近年迄我が家はねぎ栽培が主体だったが労力のない水田をほとんど公社だのみで経営している。何もかも御世話になっていると追銭をうたなければなら

ない状況なので春の田植迄の田ごしらえ程は自分でやることにしている。御多分にもれずそのことすら容易なことではなくなる。

もし今動けなくなったらどうなるんだろう...とそんな年越苦勞ばかり考えないでもっともつと上を見ようと自分を宥める。もし幸せにもせがれが定年後は後を継ぐとすれば万々歳。それにしても私の年令と彼が引き継ぐその間の空白がある。そのことが何よりも気になる一番の問題だ。

行政の方で何かいいてだてはないものか...とずるい考えをおこす。とにかく健康に留意し前向きに、それしか方法は無いと思う。

米政策の見直しが決定し集落営農の要件等も緩和され明るいニューズもありこれから農業はやり方次第でまんざらでもありません。

”行政ばかりたよらずあなた達も知恵をしぼりなさい”と宙から叱咤しているようです。昨年はいろいろな面で不幸ないやなことばかりが多過ぎたが是非とも今年はよき年でありますよう祈るばかりです。

この度の改選により、民生委員・児童委員の任務を辞する事となりました。4期12年の歳月は永い様で短くもあつた様に思いました。その悲しい出来事に遭遇する事もありませんでした。しかし地域の皆様の励ましや、御協力を得ながら、やっとこの日を迎える事が出来ました事を心より感謝いたしております。

民生委員、児童委員の任務を終えて



新道 生田 三那子

ペアで、各地区の皆さんの様子を伺って廻りました。皆さん人に迷惑をかけない様にと健康や生活面でも、色々工夫しておられ、たくさんの方の生活の智恵を学びました。この度、6名の新任の委員さん、再任の13名の委員さん、再任の13名の委員さん、再任の13名の委員さん(内主任児童委員2名)の皆さんは、アンテナを立て活動をスタートされました。

民生委員は、社会奉仕の精神をもって、相談支援活動を行うボランティアです。委員には、守秘義務があり、相談内容や秘密は守られます。安心して暮らすことのできる地域社会づくりをめざしています。

一人で悩まないで地域の民生委員さんに相談して下さい。それぞれの機関を通じ、きつと良い解決が得られると思います。

小さくても元気で、明るいまちづくりに向けて、私も一住民として、協力していきたいらと思いをしています。

あとがき

▼新しい年を迎え本年が良い年になります様祈ります。

▼一年を締めくくる文字に「偽」が選ばれるほど昨年は激動と混乱の年となりました。書店では新渡戸稲造著「武士道」がベストセラーになっていますが、今もう一度武士道精神を取り戻したいものです。

▼春に操業のサントリイは、正月よりテレビCMをスタートし奥大山の文字と共に笠原の自然が全国に流れています。又、心配された雪も、年末には積もり、スキー場もホツと一息です。地球温暖化が叫ばれる昨今ですが、やはり昔からの自然の四季が大切だと感じます。

上原二郎

議会広報調査特別委員会

- 委員長 越峠恵美子
- 副委員長 川上 富夫
- 委員 上原 二郎
- 委員 日野尾 優
- 委員 池田 成弘